

研 修 会

研修 A

視察(大仙市の公文書・地域史料の保存管理)

静岡県経営管理部総務局法務文書課

高 塚 雅 文

研修 A は、大仙市の公文書庫として利用している大仙市中仙庁舎、地域史料保存場所として利用している田茂木浜蔵の視察を行った。

大仙市は平成17年3月22日に8市町村が合併して誕生しており、旧大曲市役所を本庁舎に、その他旧7町村の役場を支庁舎としている。

大仙市では、合併時に本庁舎の書庫エリアに教育委員会が入ることになったため、スペースに余裕があった中仙庁舎の2階会議室を書庫に変更し、旧大曲市及び合併後の大仙市の永年保存文書を移動した。中仙庁舎では、元々保管されていた旧中仙町の永年保存文書と併せ、約7,300点が保存されている。

書庫は会議室に固定書架を設置しただけで、文書を保管するための空調は施していないとのことであった。

合併したその他の旧町村の永年文書は、現

在はそれぞれの庁舎の書庫に保管している。

有期限文書については、平成23年から選別を開始し、公文書館に改修する場所とは別の廃校となった小学校に保管している。

目録については、旧市町村で作成しておらず、平成23年度から作成している。現在のところ本庁分と3庁舎分は完了しており、今後残りの4庁舎分を順次作成していくとのこと。目録はエクセルで作成しているが、職員の作業用であること、全て完成していないことなどから、公開はしていない。公文書館が開館したら、公開用目録を作成する予定とのことであった。

視察時には、中仙庁舎に保管されている永年文書を展示しており、明治16年から18年までの仙北郡藤木村会議事録など昭和の合併以前の町村議会の議事録、大正3年の強首地震（秋田仙北地震）の震災書類、明治43年からの盛曲線（現JR田沢湖線）鉄道関係書類など、仙北地方の地域形成に関する貴重な資料を確認できた。

田茂木浜蔵は、東北三大地主に数えられた池田家が小作米の収納蔵として使用するため、明治40年に建てた米蔵である。雄物川支川の丸子川沿いにあり、米の運搬が船で行わ



公文書（永年保存）書庫のある中仙支所



地籍図



田茂木浜蔵

れていた時代の歴史を伝える建造物となっている。その後は平成15年まで農協の米穀倉庫として利用されて、旧仙北町に寄贈された。平成17年3月に旧仙北町指定の有形文化財となり、合併を経て大仙市に継承されている。

蔵は豪雪地帯のため覆屋を備えた構造で、間口約8m、奥行き約30m、米蔵としては約6,000俵の収容能力を持っているが、現在では池田家文書を中心とした大仙市の地域史料の保管庫となっている。

蔵の気温調整は行っていないが、農協の倉庫時代に通気孔をふさいでしまったため湿度が高く、除湿機を4基稼働させ、蔵外に排水して湿度を55%程度に保っている。

池田家文書は、池田家から寄託されたもので、整理が終わっていないため点数は未確定であるが古写真で2,300点以上、文書で3,000点以上存在している。旧池田氏庭園の中にある洋館の改修中に発見された文書は、紙袋に



池田家文書が納められていた引き出し

入った状態で作成年順に引き出しの中に収納されており、引き出しに番号が振ってあるため復元も可能とのことであった。

史料は通常時には閲覧体制は取っていないそうだが、視察時には、年貢の徴税記録にあたる「持高御収納覚帳」や、久保田藩の御役屋の行政文書にあたる日記などの史料を展示していた。

久保田藩（秋田藩）は、藩内6郡にそれぞれ「御役屋」という郡庁を設置し、その下に10箇村程度を束ねる「親郷肝煎」という郷長を豪農の中から任命する統治機構となっていて、池田家は「親郷肝煎」として年貢の徴税等に当たっていた。村方の池田家の文書の中に藩の行政文書である日記があるのは謎だそうだが、秋田戊辰戦争の際、御役屋から文書の避難を行ったのではと推測されている。



池田家文書「八十五番日記」

新たな地域史料の発掘については、保管場所の関係もあり、現在は行っていないが、公文書館整備後に再開するとのこと。また、目録の作成及びデジタルデータ化については徐々にではあるが、作業を進めているとのことであった。

公文書の保存と利用については、大規模合併を経て誕生した自治体が抱える課題に対して苦慮している様子が窺えた。公文書にしても地域史料にしても設備や体制に制約がある中で、いかに後世に残していくか前向きに取り組んでおり、その姿勢に学ぶところの多い充実した視察であった。